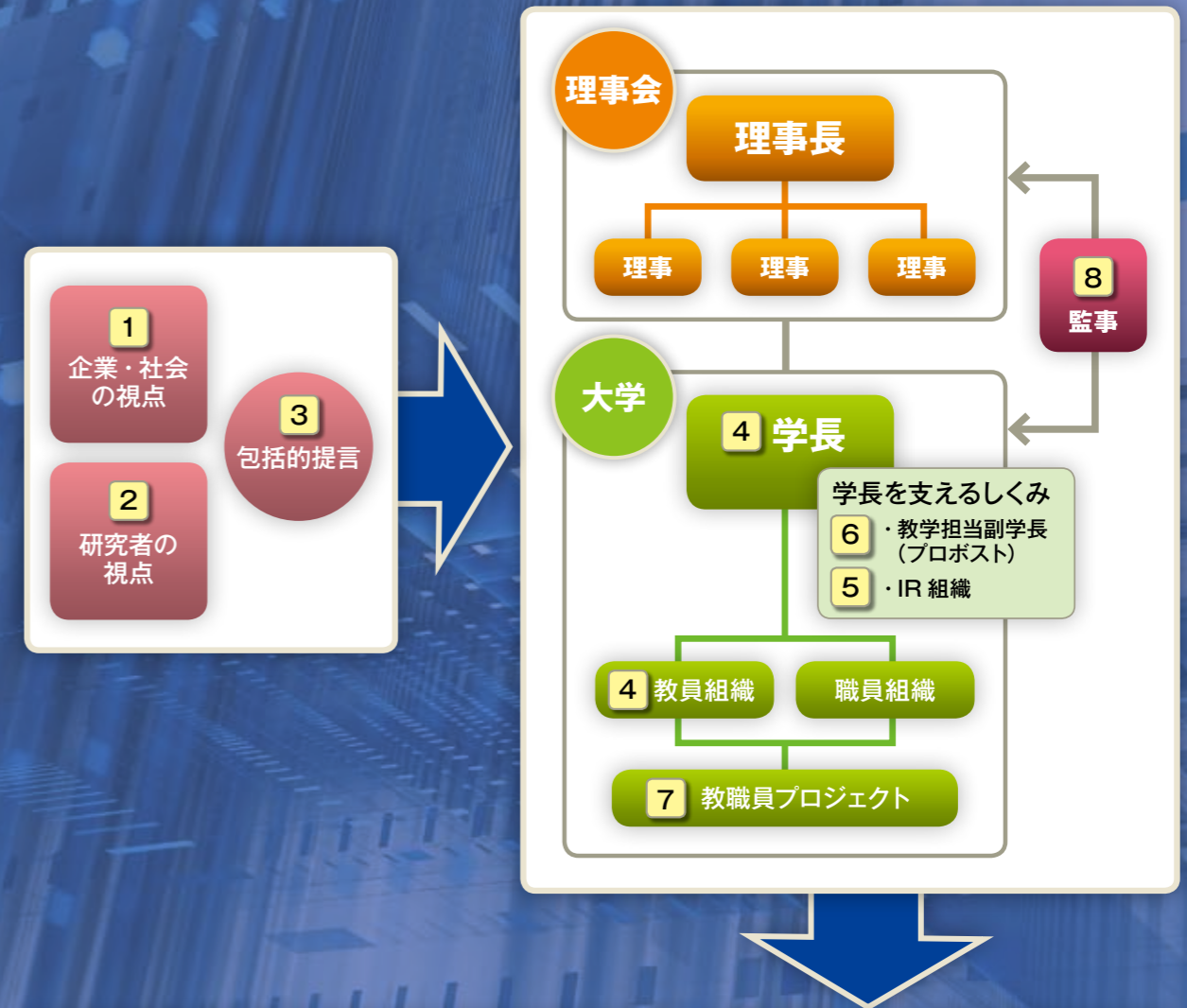


[特集]

迅速な意思決定のしくみの構築

待ったなしの改革を迫られている大学において、迅速に意思決定をしてそれを実行するためのしくみの構築、つまり、ガバナンス改革は最重要課題である。生き残りをかけた特色強化のための選択と集中、廃止と縮小を、誰がどのような手続きで決めるのか。競争力に直結するガバナンスのあり方こそが、大学の将来を決めると言っても過言ではない。

迅速な意思決定のしくみ (私立大学の場合)



特色強化のための選択と集中

- 1 産業界から見た大学の意思決定のスピード P.4
- 2 速やかに課題に気づくしくみの重要性 P.6
- 3 迅速な意思決定のしくみづくりのための提言 P.8
- 4 トップの選任方法見直しと教授会の諮問機関化 P.12
- 5 データに基づく意思決定 P.15
- 6 教学組織と執行部の調整を担うポスト P.18
- 7 現場への適切な権限委譲 P.20
- 8 監事機能の実質化 P.23

※本特集では教学改革をメインに考えるため、多くのページで「トップ」は学長を指す